

# 樹脂コンパウンド事業に見る商社の機能

## 一拠点設立から生産管理まで あらゆる悩みをワンストップで

もちづき たかし  
望月 卓稲畑産業株式会社  
執行役員合成樹脂第一本部本部長

稲畑産業は山陽化工と共同で、樹脂コンパウンド事業をアジア各国で展開しています。山陽化工は樹脂コンパウンドを専門とする企業です。現在、稲畑産業グループはタイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、フィリピン、中国（3拠点）の計6ヵ国で8工場を運営し、計約16万トンの生産能力を有しています（2008年4月1日現在）。

私自身、2006年に帰国するまでタイに約18年駐在するなど、長年、東南アジアでの合成樹脂ビジネスに携わってきました。今回は稲畑産業グループの樹脂コンパウンド事業を通し、当社の機能と特色の一端をご紹介させていただきたいと思います。

### 樹脂コンパウンドとは

樹脂コンパウンドとは、原料樹脂（ナチュラル樹脂）に顔料や添加剤、他の樹脂などを混ぜ合わせ、新しい外観、物性、機能を持つ樹脂に加工することです。

例えば、自動車のバンパーに使われるポリプロピレン（PP）は、そのままでは柔らかすぎますが、炭酸カルシウムを混ぜ合わせることで



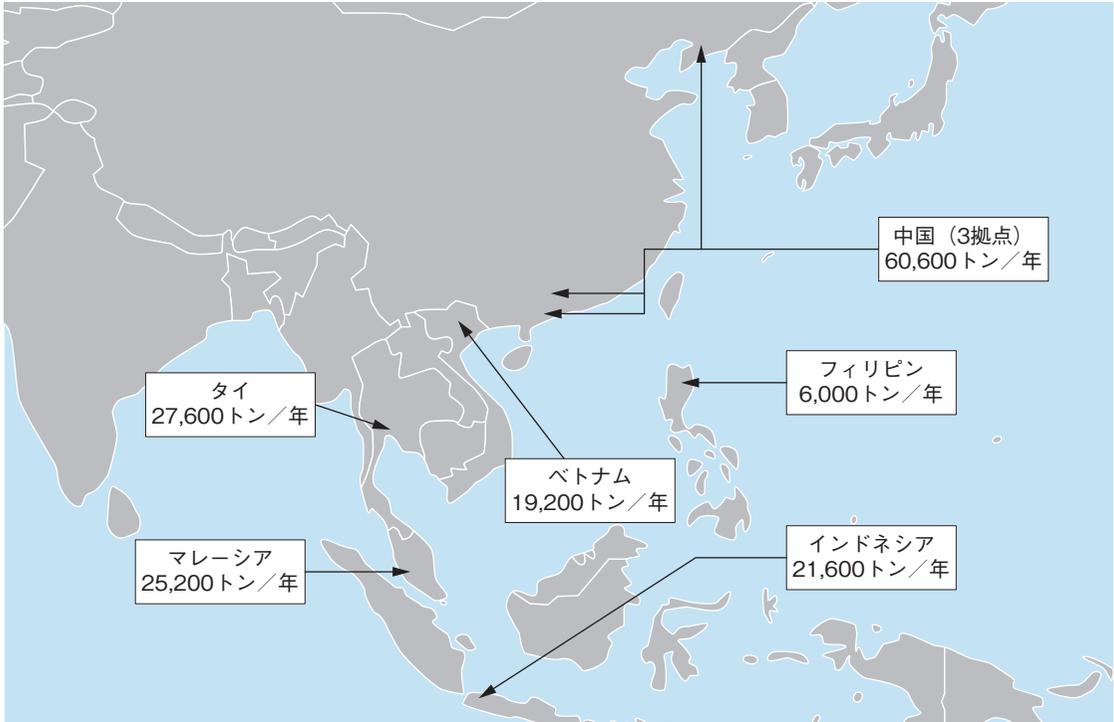
硬さが増します。また、家電製品やAV機器の部品向けには、難燃剤を混ぜることで燃えにくくしたり、繊維を混ぜて強度を増すなど用途に応じた素材に加工します。

稲畑産業グループでは、素材メーカーなどからナチュラル樹脂を仕入れ、家電などの消費財メーカーの指定色やグレードに合わせて加工し、付加価値を加えた樹脂の生産、販売を行っています。

### 樹脂コンパウンド事業を始めたきっかけ

当社が樹脂コンパウンド事業を始めたのは約30年前です。素材メーカーの代理店権を取得して、合成樹脂をアジアで販売するためには、「ど

図1 稲畑産業グループの樹脂コンパウンド生産能力



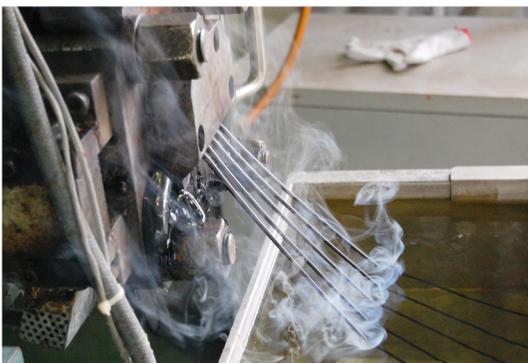
(注) 160,200トン/年 6ヵ国8ヵ所 (2008年4月1日現在)

うしたら当社ならではの方法で顧客ニーズに応えることができるか？」を模索していました。その「カギ」となったのが、樹脂コンパウンド事業でした。

当時、東南アジアに進出した日系家電メーカーは、大半の原料を日本から輸入していたため、

在庫管理や需要の変化への対応に苦勞されていました。そこで、当社が顧客工場の近くに樹脂コンパウンド工場を設立し、日本製原料と同品質の樹脂をタイムリーに供給できる仕組みを提案したのです。これによって安定供給と合理的コストという顧客が原材料を調達するうえで欠かせない基本的条件を現地で実現しました。

プラザ合意を受けた1980年代後半、日系家電メーカーの海外進出が加速し、拠点もシンガポールからタイ、タイからマレーシアなどへと拡大していきました。稲畑産業グループもそうしたメーカーのニーズに応えるべく各地へ展開し、アジアでネットワークを広げていきました。「生産移管は即日完了」というスローガンの下、家電メーカーが他国に生産拠点を移管・拡大した際にも、当社のネットワークを活用していた



溶かして混ぜ合わされた後、押出機から押し出される樹脂

だくことで、移転前と同様のサービスを速やかに提供できるような体制の構築に取り組んだのです。

一方、樹脂原料を生産する素材メーカーにとっても、仲介機能を有する稲畑産業グループの樹脂コンパウンドネットワークの拡大は、域内各地の製品メーカーに対するきめ細やかな原料の供給を可能としたといえるのではないかと考えます。

## アジア各国に拠点を持つ

### 稲畑産業グループのメリット

東南アジア各国や中国では、国ごとに輸出入や税金の制度などが異なります。その内容も頻繁に改正されるほか、手続きも複雑となるなど、新たに生産拠点を立ち上げる際の悩みの種の一つとなっています。

稲畑産業グループには各国での認可取得や工場設立経験があるため、書類作成を含む実務ノウハウの豊富な蓄積があります。また、いざというとき、どこへ行き、どのような関係者に相談すれば解決できるかなどの情報を豊富に有しています。こうした情報力こそ、当社が樹脂コンパウンド事業を展開するうえでのもう一つの「カギ」となっているのだと思います。

一方、本来商社である当社自身が生産子会社を運営しているため、生産者として顧客メーカーと同じ目線で悩みやニーズを共有できることは大きなプラスです。なぜなら自らの経験を活かしてトラブルシューティングに取り組むこと

ができるからです。これは現地生産拠点を持つ商社ならではの強みだと思います。

在庫のリスクや原料調達の問題を解決するだけでなく、拠点立ち上げ手続きから生産管理まで、あらゆる悩みを共有し、ワンストップ・サービスで応えることのできるパートナーでありたいと考えています。

## 今後の展開

近年、東南アジアや中国には日系自動車メーカーが競って進出し、コンパウンド品への需要が大変高まっています。

今後は、この自動車向け樹脂にさらに注力するとともに、AV/OA向けのエンジニアリングプラスチック（エンブラ）や、パソコン、精密機器などに使用され、より付加価値の高いスーパーエンジニアリングプラスチック（スーパーエンブラ）などのビジネスをいっそう強化していきます。エンブラは少ロットのニーズが多く、ちみつな生産計画と高い技術力を必要としますが、稲畑産業グループの生産管理や品質管理に関する豊富なノウハウが今後ますます、強みになると考えています。

商社の仕事は、1にも2にも顧客と悩みを共有し、多様化するニーズをいかに的確に把握できるか、いかに解決策を提示できるかだと思います。これからも、コンパウンド事業に限らず、知識、機能、技術、設備を顧客ニーズと結び付けることで、さまざまなビジネスを新たにデザインしていきたいと考えています。

JF  
TC